



●かごんまの色® 活用事例 1

◆あづまバッグ

鹿児島大学共同研究開発商品「あづまバッグ」は、県伝統的工芸品指定店 亀崎染工（いちき串木野市）との共同研究によって誕生した商品です。

これは江戸の知恵から生まれたあづま袋から発想を得たショルダーバッグで、かごんまの色®の18色（かるかん色は生地色）を使用しています。

大漁旗作りなどに使われる印染（しるしぞめ）の伝統技法を活かし、かごんまの色®で帆布が一刷毛一刷毛丁寧に染め上げられています。商品の図柄は、かごんまの色®のロゴマークをモチーフとした「麻の葉」、鹿児島の象徴「桜島」、日本の伝統文様「七宝」の三種類。ストラップには帆布に漆プリントが取り入れられています。

優れた技術・意匠とともに、機能性、地域の特性が活かされているとして、2019 かごしまの新特産品コンクールで高く評価され、最高賞の鹿児島県知事賞を受賞しました。

あづまバッグ：<https://kamesomeya.net/>

かごんまの色®：

<https://www.krcc.kagoshima-u.ac.jp/blog/article/kagonmanoiro2019/> (牧野暁世)

●貴石の色・琥珀

琥珀（アンバー）は、針葉樹の松ヤニが硬化したものです。海岸から発見されたものはシーアンバーと呼び、樹液の中に昆虫や植物を内包する場合があります。

紀元前 3700 年頃、エストニアで作られバルト海岸は数千年に渡り主要産地として知られています。

イエローアンバーは蜂蜜のようとした印象で、チェリーアンバーはイエローよりも赤みを帯びた色で、赤褐色のレッドアンバーは、天然品は少なく加熱や加圧処理が多く、グリーンアンバーは紫外線により蛍光グリーンの反射光が見えて天然品は少なく、ブルーアンバーは、樹脂に含まれる成分が紫外線によって蛍光ブルーに見えるもので、太陽光の下では青みを帯びた光を放ちます。

様々な色味がある琥珀の色は女性の心を虜にします。

画像は、レーザーで加熱処理したレッド琥珀でイタリアの技法のインタリオという彫刻の技術で作った琥珀です。(田森恭子)



●芥川龍之介の短編小説の色— 16

◆好色（大正十年九月）

色好みの平安貴族平中こと平貞文を題材にした物語である。

一 画姿は、作者による天が下の色好み平中の似顔絵の批評。

二 桜は、本院の侍従を見かけて惚れ込み、二十通も艶書を送ったが、莫迦にされた返事を貰い、桜を見ながら悔しがる平中。

三 雨夜は、大雨の夜、侍従の局に忍んで行き、鍵を掛けられる屈辱を受ける平中。

四 好色問答は、平中の二人の友人の間の平中批判。

五 まりも美しいとなげく男は、侍従の不浄を見つければ幻想も消えると期待して、糞(まり)の筐を奪うと香色の水の中の香細工のまりを確認して昏倒する平中。

撫子重ねのあこめに色の濃い袴、赤紙の画扇の下の筐。

女色：紅梅、萌黄、紫、撫子、赤、香染。

男色：白、菜の花色、薄青、銀。

肌色：赤、臙脂、薄墨、青、浅黒、琥珀色、白、蒼白。

自然色：銀、白、赤、ぬば玉、緑、金。

其の他：青、香色。

色名が多く登場する小説である。(永田泰弘)